

巡査が来て『君か』と言つた。

『俺は色情狂でも何でも無いんだ、何故降りなければならぬんだ』  
荷物をもつて、何でも好いから降りろと云ふ。

汽車は出て行つて了つた。

驛の附近の交番へ連れて行かれる。

刑事が居て『君は女にふざけたそうだが』と言つた。

『そんな馬鹿豚があるか』

『そんなら此處に待つてゐろ』

新吉は舐めてゐやがると思つた。

刑事が居なくなつたので新吉は驛員室へつかつか這入つて行つた。

『切符があつても、此方が不安だと認めたら、駄目です』驛長らしい男が猜疑心強く言つた。

先の刑事が來た。

『何故交番にゐないんだ』